

コンテンツ作成の趣旨

『生徒指導提要』が令和4年12月に改訂されました。そこでは、生徒指導の定義として、「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである」と示されています。また、生徒指導は、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える」ことを目的としています。

これらのことを踏まえ、これからの生徒指導においては、特定の児童生徒に焦点化した「事後」指導・援助から、全校体制で取り組む全ての児童生徒の「成長・発達を支える生徒指導」への転換を目指すことが求められています。

生徒指導の「重層的支援構造（2軸3類4層）」

『生徒指導提要』の第I部では、下に示した図1のように、全ての児童生徒の発達を支える生徒指導を基盤とした「重層的支援構造（2軸3類4層）」が示されています。今回の改訂では、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象にした全ての教育活動で行う「**発達支持的生徒指導**」の充実が求められています。

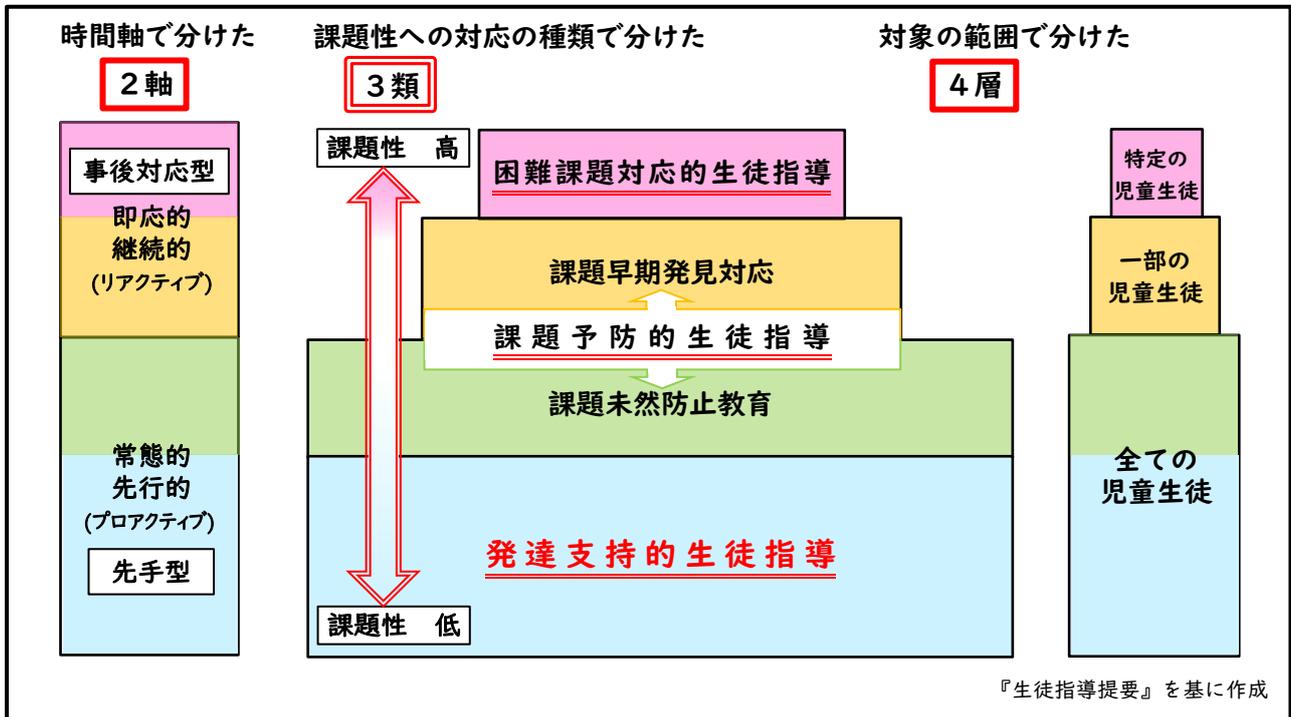


図1 生徒指導の重層的支援構造（2軸3類4層）

「発達支持的生徒指導」

発達支持的生徒指導では、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し、「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ように働きかけます。「発達支持的」とは、児童生徒と向き合う際の基本的な立ち位置を示しています。日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。

本研究では、特定の課題を意識せずに行う「**発達支持的生徒指導**」に着目し、児童生徒の成長・発達を支える生徒指導の取組に役立つリーフレットを作成していますので、ぜひ御活用ください。

